

令和元年度
自己点検評価報告書

学校法人江楠学園 佐賀工業専門学校

1 学校の教育目標

本校は「何処の場にありても なくてはならぬ人となれ」という建学の精神のもと、先

進的な工業技術を座学、実習の両面から徹底的に指導するとともに、豊かな教養を身につけ、企業の即戦力となる責任感旺盛な人材の育成を目標とする。

2 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

令和元年度では、以下について重点的に取り組み教育を行った。

(1) 自動車学科

- ・ 二級自動車整備士8年連続100%を目指し、学生一人一人に合った指導を徹底し、併せて整備技術のスキルアップを図る。
- ・ 就職率100%を目指し、1年次早めの会社説明会参加を促進させる。
- ・ 企業から求められる人材育成の向上を図るため、昨年同様に外部講師による講座を実施する。

(2) エアポートサービス学科

- ・ グランドハンドリング業務において、必要な知識と空港で使用する用語を習得させるとともに特殊車両運転に必要な資格取得併せて運転技能を向上させ即戦力として活躍できるように実践的技術を身に付けさせる。
- ・ 就職試験対策として基礎学力の向上を図るとともに社会人として必要な教養教育を行う。

3 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適…1
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	④ 3 2 1
学校における職業教育の特色を持っているか	④ 3 2 1
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 ③ 2 1
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4 ③ 2 1
各学科の教育目標、育成人材像は、それぞれに対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4 ③ 2 1

① 課題

自動車整備士養成校に対して、自動車整備業界が整備士に求めるニーズは新技術の

導入に伴いますます高くなっている。整備の基礎は勿論のこと技術の飛躍的な進歩に伴い電気・電子といった部門にも対応できるメカニクを育成することが必要とされている。また、航空産業界では、本年開催の東京オリンピック、2025年開催の大阪万博に備えて企業が求めている質の高いグランドハンドリングスタッフを育成することが必要である。併せて、両学科の共通として社会人としての人間力の育成も求められている。

② 今後の改善方策

- ・ 自動車業界は、2021年11月から国産新型乗用車には衝突被害軽減ブレーキの義務化など日進月歩で進化している。その変化に対応するため、職業実践専門課程の特色を活かし最新の実務に関する知識・技術・技能等を習得させるよう関係業界団体・企業との連携を強化し業界の求める新技術にも対応できる人材育成に努める。
- ・ エアポートサービス学科においては、専門知識の座学と就職後の就業に直結する実習とのバランスを計りながらその質の確保に努める。併せて、国際化にも対応した人材づくりを図ることが必要となる。また、両学科共通事項として社会人として求められるマナー・コミュニケーション力の向上に向けて全職員で取り組み継続して教育する。
- ・ 学校理念等の周知については、学校行事とホームページ・保護者宛の文書等を活用し周知を図ることに努めていく。

(2) 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適…1			
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか	④	3	2	1
運営組織や意思決定機能は、有効に機能しているか	④	3	2	1
人事等に関する規定等は整備されているか	④	3	2	1
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
システム化等により業務の効率化が図られているか	④	3	2	1

① 課題

教育活動等の公開は、学生募集の効果にも繋がることから引き続き HP 上にてリ

アルタイムに発信する必要がある。

② 今後の改善方策

自動車学科の国家資格二級自動車整備士7年連続100%合格並びにエアポータサービス学科の英語検定2級の合格者等のリリースなどホームページのブログを活用し学校行事並びに授業風景などタイムリーな情報を発信している現行を継続していく。

(3) 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適…1			
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
教育理念、人材育成や業界ニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確になされているか	④	3	2	1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④	3	2	1
関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④	3	2	1
関係分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1
授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
資格取得に関する指導体制、カリキュラムの中で体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	④	3	2	1

関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	④	3	2	1
職員の能力開発のための研修等が行われているか	④	3	2	1

① 課題

自動車整備業界においては運転支援・自動運転装置など先進技術搭載車が急速に普及し、これに伴う法改正などにも学校は対応していかなければならない。

また、エアポートサービス学科の実習については、卒業生並びに採用企業からの評価も高いことから更なる機材の充実も求められる。

② 今後の改善方策

- ・ 自動車学科は、JAMCA 会員でもあることから中央で行われている研修会等への積極的な参加により先進的な知識・技能等を習得させる。
- ・ エアポートサービス学科の実習教材については本年度、TT 車・コンテナなどを更新したが、今後は新機材の導入なども検討し人材育成を図る。

(4) 学習成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適…1			
就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1
退学率の低減が図られているか	④	3	2	1
卒業生等の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	③	2	1

① 課題

- ・ 卒業生の活躍・評価を十分に把握できていない。

② 今後の改善方策

- ・ 卒業生との情報交換併せて就職先の担当者との連携を密にするとともに企業訪問時等を利用し評価等の把握に努める。
- ・ 退学者の低減策としては、欠席日数等の多い学生に対して早期に保護者との連携

を図り学生の身上把握に引き続き努める。

(5) 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適…1
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4 ③ 2 1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
保護者と適切に連携しているか	④ 3 2 1
卒業生へのアフターフォロー（支援体制）はあるか	④ 3 2 1
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・ 職業教育の取組が行われているか	4 ③ 2 1

① 課題

健康管理体制の整備

② 今後の改善方策

- ・ 学園内の保健室との連携を維持しつつ、怪我等に対応した「受診マニュアル」を作成し職員内で共有する。
- ・ 課外活動の支援体制については、九州ブロック専門学校体育大会に向けた練習並
びに参加時の補助などの支援については今後も継続する。
- ・ キャリア・職業教育の取り組みについては、中学校への出前授業と高校からの
験授業の受け入れなどを行った。今後も積極的に取り組みたい。

(6) 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適…1

施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④	3	2	1
学内外の実習施設、インターンシップ、研修等について十分な教育体制を整備しているか	④	3	2	1
防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1

① 課題

- ・ 実習教材等の更新も今後検討していかなければならない。

② 今後の改善方策

- ・ 時代に即した教材の段階的な更新に向け検討していく。
- ・ 防災訓練の回数や救急法など含めた研修会の開催に向け調整する。

(7) 学生募集

評価項目	適切...4、ほぼ適切...3 やや不適切...2、不適...1			
学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1
学生募集活動において教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
校納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

① 課題

- ・ 高卒者の減少に合わせて求人倍率は高水位で推移し募集に対して非常に厳しい環境にある。実効性のある効果的な募集広報活動が必要である。

② 今後の改善方策

- ・ 募集活動を取り巻く環境は極めて厳しい中であって、対象者に対して解りやすく尚且つインパクトのある広報物（パンフレットなどの印刷物）に変更していくなど具体的に広報活動を推進させる。
- ・ 年度末には新型コロナウイルス発生に伴い各種のガイダンスが中止になるなど高校生等との出会いの場併せて学校の魅力発信が縮小されており、これまで以上に学校訪問・資料請求者等に対するの対応などを重視して活動する。

(8) 財務

評価項目	適切...4、ほぼ適切...3 やや不適切...2、不適...1			
------	-------------------------------------	--	--	--

中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2	1
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
財務について会計監査が適切に行われているか	④	3	2	1
財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

① 課題

財務については、学校法人において監査並びに財務公開まで適切に行われている。しかしながら学生の充足率が財務基盤の根幹であることは言うまでもなく魅力ある学校づくりと募集活動に取り組まなければならない。

② 今後の改善方策

充足率の向上に向け学校の価値を高めることが募集活動の要因となることからより良い学校づくりを掲げ全職員で取り組んでいく。

(9) 法令等の順守

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適…1			
法令、専修学校設置基準等の順守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④	3	2	1
自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

① 課題

法令や設置基準は遵守されており適正に運営されている。また自己評価に関する問題点の改善については道半ばではあるものの公開は適切に行われている。

② 今後の改善方策

自己点検評価の最大の狙いは、諸々の問題点の改善に取り組むことであり、引き続き全職員の問題解決に向けた意識改革が必要である。